

教員基礎演習Ⅱ・キャリア開発演習Ⅰの研修会

留学生教育センター特任講師

修士（心理学）／修士（コミュニティ福祉学） 佐藤広崇

二村先生ならびに狩野先生による授業を拝見し、また、総長先生のお話から学んだことについて、以下にまとめる。

第一に、二村先生の教員基礎演習Ⅱでは、理科分野の問題ということで、はじめに解き方の解説を平易な言葉で行い、その後、問題文の数字を変えた類題をなるべく多くこなすことで、パターン化して覚えるということが重視されていた。他の公務員試験、福祉や心理の国試対策授業では、解説のポイントの暗記などに重点が置かれるが、その部分が理科系科目では異なると感じた。とはいえ、総長先生のメソッドである、重要ポイントを絞って学生に暗記してもらい、正解に直結する道筋を教員側が示すという原則は通底していると感じた。教員が長々と学問的な知識を述べることは必要ない。余計なことを述べるとかえって学生が混乱し、効果が上がらないからである。授業の目的は学生が公務員試験、教員採用試験などに合格することである。

第二に、狩野先生のキャリア開発演習Ⅰでは、行政の役割をテーマとした論述問題を扱う授業であったが、学生に論述問題を指導する際に留意すべきことについてである。

論述問題は学生に一から書かせるのではなく、はじめにテキストの解説文から重要とされる箇所を読んでもらい、線を引く。これは、テーマをどのように理解して、どのようなポイント盛り込んで論述するのかということをはっきりと学生に示すためである。その際、今回の授業で総長先生が実際に学生に対して、難しい言葉や表現ではなく、平易で分かりやすい言葉で明示なさっていた。

ここでのポイントは、試験本番に同じようなテーマが出題された際、文章に入れ込むべきキーワードや重要事項をおさえておき、それを暗記しておけば、学生は文章をつなげて論述することができるということである。そのためにも教員がなすべきことは、テキストの余分な解説はそぎ落とし、いかに情報を集約してポイントだけに絞って学生に提示できるかということである。文章の要素となる箇所をわかりやすく明示できれば、あとはその部分を暗記すればよい。総長先生がおっしゃったように、公務員試験の論述問題は、出題されるテーマに一定の傾向があり、本学のメソッドは極めて有効であると感じた。